

年頭所感

町長 齊藤 讓

新しい年を迎え、改めて町民の皆様のご多幸と光町の躍進を、心からお祈り申しあげます。

昨年のがが国は、国内景気の好況に支えられて、五兆円を超す国税の自然増収が生まれるほど経済は堅調に伸展し、拡大基調で推移いたしました。一方、政局は、懸案の税制改革をめぐり、与野党間の厳しい対立が続き、加えてリクルート問題が、これに油を注ぐ結果となり、税政改革の所管大臣である宮沢蔵相が国会審議の最中で辞任するなど混乱を極めたところであります。いま、国際社会の中で、わが国の果すべき役割が、一層強く求められている時だけに、諸外国の信頼を高めるためにも政治の浄化と安定のための政治改革が緊



運動公園予定地で
左から平山教育長、畔蒜助役、齊藤町長、鈴木収入役

急重要な課題となつてきております。今年も日本経済は、各経済研究機関が四パーセント後半から五パーセント台の高い成長率を予測しており、持続的安定成長が期待される

ところであります。

ところで、当町は、昨年の異常気象により、農業や夏期観光事業に於て、かなりの経済的打撃を蒙り各位のご苦労が思いやられるところであります。しかし、この苦難を、一層の自助努力によつて克服をし、今年の発展につなげて

いたしたいと思います。願つております。町行政は、ほぼ計画どおりに各種事務事業が進行をし、特に、長年の懸案であった篠本開発が着工の運びとなつたことは喜びに堪えないところであり、今後の篠本地域の全体的開発に大きな弾みがついたものと考へており

ます。また、各種行事は、いずれも昨年を上廻る多勢の町民の参加を得て、大きな成果を挙げ、住民参加によるふる里づくりの芽が、着実に育つてきているのではないかと思つております。いずれにしろ、昨年の町行政は、順調な財政状況と町民の皆様のご理解、ご協力を背景として各般にわたつて大きく前進をした一年であつたと考へます。本年も、この流れを基調としながら、積極果敢に町づくりを推進していく所存であります。特に、投資事業については、篠本開発事業の着実な推進と道路の整備事業を中心として思ひきつた財政投資を行うと共に、三町で経営する東陽病院の建設事業を、かねてから計画してきた通り本年秋には着工する予定であります。尚、病院建設は、ちようど東陽病院開設四十周年を迎える再来年の三月には完成させることといたしております。その他、ライスセンター等の改善に対する助成措置、商工会とタイアップした商業事業にも積極的に取り組む



と同時に軌道にのりつつある家庭排水対策事業も引続き事業の拡大を図つてゆきたいと考へております。また、充実感が漲りつつある学校教育については、中学校へ新たにコンピュータ教育の導入、外国人英語講師の設置等を図ると共に、高校生への奨学金制度を発足させ、教育の一層の振興を図つてゆく所存であります。更に、町民の心の輪を広げ、老人や社会的に恵まれない方々に対する暖かい福祉の芽を育てるための事業も地域や関係者のご協力を得て積極的に推進してゆきたいと考へております。

今年には町政施行二十五周年

の節目にあたる年でもあり、これを記念して製作した「ひかり音頭」を町民相互の心の糧とし、わが光町の存在を内外に大きくアピールしてゆきたいと念願いたしております。